

平成 23 年度 卒業式 式辞

本日、平成 23 年度の姫路獨協大学卒業式を挙げていただけますことは、本学として、また卒業生の諸君にとりましても、まことに喜ばしいことでもあります。私ども教職員一同、心からお祝いを申し上げます。

このたび卒業される皆さんは、青春のもっとも貴重な時期を姫路獨協大学で過ごされました。本学で学ばれ、経験されたことは、失うことの無い大きな糧（かて）として、これからの人生の中で生きてくると確信いたしております。皆さんの進まれる道は様々でしょうが、順調な時もまたそうでないときも、姫路獨協大学の卒業生として、自信を持って歩んでいただきたいと思っております。

さて、東日本に大震災が起こり、およそ 1 年が経ちました。この間、被災地の復興には、全国から、あるいは外国からも、数多くの援助の手が差し伸べられ、「人の絆」という言葉がみんなの心によみがえりました。広辞苑によりますと、「絆」とは、「絶つに忍び難い恩愛、離れがたい情実」とあります。まさしく、目に見えない「絶つに忍び難い恩愛、離れがたい情実」が我々を動かしてきたのだと思います。そして、昨今、時折新聞に載る孤独死の報道なども、別な角度から、人の「絆」のもつ重みを考えさせられます。私は、人は一人では生きられない、社会性を持った生物であるということをつくづく知らされた一年であったかと思っております。

社会性ということ言えば、皆さんご承知の通り、ハチやアリなどの昆虫も、社会性を持つことが知られています。ただし、かれらの社会性は、フェロモンという化学物質がつなぎの役割を果たして、また、構成員それぞれの役割分担や、果たすべき機能は、生れ落ちて早期に決定されます。いっぽう、人間社会では、人と人とのつながりは心と心によってであり、人それぞれが何者になるかは、長い時間を経て決まっていくものであり、しかもそれは自分自身で決定することです。

このように、同じ社会性という言葉でくくられますけれども、昆虫と人間とでは、根本的な違いがみられます。人（ヒト）も生れ落ちるときは、どこの誰として生まれるという条件付きではありますが、これは、その後の人生を決める決定因子ではなく、生まれた後の、その人の生き方によって、社会の中での位置や役割が定まってくるのであります。

このように考えると、この自己による人生の決定という主体性の存在こそが、人間という生物の大きな特性ということが出来ます。そして、「博識」「技術」あるいは「人間力」といった、人それぞれが持つ個性や特徴も、そのいずれもが、人が後天的に身に付けるものに他なりません。人を磨くとは、この「博識」「技術」「人間力」などを養う努力を指すものであり、だからこそ、人間社会において日々の研鑽の重要性が言われるのだと思います。

我が獨協学園が理想とする「学問を通じての人間形成」も、大学という場における日々の努力

というものを基調としており、その理想を追求されてきた皆さんには、これまで本学で身に付けられたこの真摯な姿勢を忘れずに、日々の研鑽に努めていただきたいと思います。

もう一つ。これは、努力に対する別な角度からの見方です。誰しも自分の仕事に精を出します。そして、一定の成果を得ます。自分でも「よくやった」と思う。しかし、意外にも、周りの評判はいまひとつである。そういうことが、結構おこります。「自分は頑張っている」、「十分だ」、と思っているのに、周りの評価は芳しくない。こういう、自分の評価と他人の評価のギャップ、大抵は、自分の評価より周りの評価のほうが低いのですが、こういうことはしばしば起こります。では、なぜそういう評価の違いが起こるのでしょうか。それは、残念ながら、人（ヒト）は自分中心にしかものが考えられない存在なので、自分に対する評価はどうしても甘くなるからであります。

これはまた、言い換えれば、自分で下す評価は正しいものではなくて、他人が下す評価、世間の評価こそが、適正な評価であるということなのです。会社で、「空いたポストにだれを就けるか」、あるいは「芸術作品の賞をだれにするか」、などといった場合も、それは決して自分が決めるものではありません。並んだ商品の中で、「これが良い」と選ぶのは、生産者ではなく消費者であります。

厳しい話ですが、どんな場合においても、努力するのは自分であり、評価を下すのは、自分ではないのだということもまた、念頭において、大きく飛躍していただくことを期待しております。

最後に、本日の卒業生の中には、留学生の皆さんもおられます。留学生の皆さんには、母国とは違った文化の中で、大変ご苦労されることもあったと思いますが、私どもは、この姫路で学ばれた皆さんが、ぜひとも、日本のよき理解者として、母国との架け橋となって頂き、あるいはまた世界の舞台上で活躍されることを、大いに期待しております。

以上、本学を代表いたしまして、卒業生のみなさんの前途を祝し、ご健康とご多幸を祈念して、式辞といたします。

平成 24 年 3 月 23 日
姫路獨協大学 学長 本多義昭